



難民の友に、難民と共に

アルペ通信

2020年12月

No.1

NPO 法人 アルペなんみんセンター 〒247-0001 神奈川県鎌倉市十二所80 イエズ会 日本殉教者修道院

Tel 0467-55-5422 E-mail: info@arrupe-refugee.jp <https://arrupe-refugee.jp>



難民を受け入れるニッポンに！

2019年、迫害により日本に逃れてきた難民申請者は10,375人で、日本政府が「難民」と認定したのは僅か44人（0.4%）でした。国連難民高等弁務官事務所 UNHCR のグランディ高等弁務官は、「日本の難民認定率は他の先進国（約20～50%）に比べ、極めて低い。難民認定を扱う独立した法律の整備を求めます」と表明しています。日本の難民認定申請手続は平均3年、長いと10年掛かり、その間、在留資格がなく、就労できず、国民健康保険もなく、精神的、経済的、法的に不安定な状態に置かれ、路上生活を余儀なくされている難民申請者も多くいます。

当団体は、シェルター（一時保護施設）を、難民申請者が入管施設への収容を避ける「収容代替措置」として、また、収容されている難民申請者が「仮放免」に繋がる住所地として、無償提供しています。現在、アフリカ、中近東、アジアの国々から日本に逃れてきた難民8名が当団体の施設で一緒に生活しています。

難民が日本社会に受け入れられて生活し、自立することを願い活動をしています。皆様からの貴重なご協力とご支援をお願いいたします。

NPO 法人 アルペなんみんセンター

理事長 榎川 勝也

元認定 NPO 法人 国連 UNHCR 協会常務理事 / 事務局長

アルペなんみんセンター始まりました！



施設は、季節折々の花々が咲きます。



ボランティアと一緒にさつまいも収穫



難民セミナー（聖母訪問会本部）



クリスマスツリーを飾りました。

「日本に逃れてきた難民がホームレスになるのをなんとかしたい」との思いから、難民支援に関わってきた有志が集まり、2020年2月NPO法人アルペなんみんセンターを設立しました。

上智大学の経営母体イエズス会が、鎌倉の修道院を活動拠点としてご提供頂き、4月より活動をスタートしました。コロナ禍での、スタートですが、様々な事情で住居を失った難民11人を受け入れました。3人が自立して転居し、12月時点で8人が共同生活をしています。

地域と共に

コロナ禍ですが、少しずつ地域社会との交流の輪が広がってきました。広大な敷地（東京ドームの60%）の管理や畑作業は、難民と地域のボランティアが協働で行っています。毎週、合唱団が練習の場として利用し、難民も参加しています。難民の活躍の場が広がることを願っています。

難民セミナー

難民についてもっと知って欲しいと、難民セミナーを行っています。10月に聖母訪問会院長研修会に出かけ、11月に上智大学社会福祉学科ゼミ生が訪問頂きました。出張セミナーも行っています！

ボランティア募集中です！

庭の管理、建物メンテナンス、日本語指導、カウンセリング、通訳・翻訳、入管・病院への付添等。詳しくは、お問い合わせください。

事務局長 有川 憲治

特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク 理事

JRS と連携して、地球規模の難民問題に取り組みます！



何十万人ものベトナムからのボートピープルの窮状に強い衝撃を受け、

はらわたを突き動かされ、コンパッションからペドロ・アルペ神父は、1980年11月にイエズス会難民サービス（Jesuit Refugee Service- JRS）を創設されました。それから40年間、JRSは世界56カ国で、難民たちと共にあり（accompany）、難民たちに奉仕し（serve）、難民の人権を擁護してきました（advocate）。

飢えている人、のどが渇いている人、旅人、裸の人、病気の人、牢に入れられた人、「私の兄弟姉妹であるこのもっとも小さい者の一人にしたのは、

わたしにしてくれたことなのである」（マタイによる福音書25章40節）。もっとも小さくされた難民のうちにイエスを見出すことができますように。

難民条約に加入したにもかかわらず、国際法を意に介さず、国家主権の名のもとに難民たちを保護するより管理しようとする日本。アルペなんみんセンターは、JRSとの連携のもと、国際的な活動も視野に入れながら、これからもできることを探しつつ、活動を展開してまいります。どうぞますますの応援、お願いいたします。ご寄付、人の派遣、何でもかまいません。

理事 小山 英之

イエズス会、上智大学神学部教授
特定非営利活動法人 なんみんフォーラム代表理事



命の危機を逃れてきた難民の人たちが日本で直面するのは、難民認定の制度の壁だけではありません。「難民」になる前は、私たちと変わらない個々の人生があり、その中で培った人間関係もキャリアも夢も財産も、一切を置いて日本に逃れてきます。

そんな彼らは、言葉や文化の違い、社会からの断絶、「難民」というレッテルが生み出す心の壁、それら困難が立ちはだかる毎日のなかで、生きていく必要があるのです。中には、来日直後からの長期収容で、心も身体も疲弊している人たちも、少なくありません。それでも彼らには、自身の人生を選びとっていく力があると、私は信じています。そして日本社会の一人ひとりが、力になれることが、きっとあるはずだと思っています。

アルペなんみんセンターが、難民の人たちにとって、心安らぐ環境の中で、日本の社会や情報、機会とつながりながら、「第二の人生」を選びなおしていける拠点として、発展することを目指します。

理事 山本 菜奈

特定非営利活動法人 WELgee (ウェルジー)



もっと知りたい

難民のこと

おすすめ映画

ヒューマン・フロー



Amazon, YouTube でオンライン視聴が可能です。

おすすめ書籍

難民鎖国ニッポンのゆくえ



ご支援ありがとうございました！（2020/4/1～11/30、169件、敬称略）

【北海道】小川和子、佐藤真理恵、若原正光、櫻井佳子、高田邦子【青森県】大川尚子【秋田県】聖体奉仕会修道院【宮城県】佐藤みか、馬場信子、肥田みほ子【栃木県】岩崎美和、中尾美沙子【茨城県】石澤里子、都留孝子、逸見さち子【埼玉県】林淑華、東郷ソヨ子、山本美知子、五十嵐勝子【千葉県】安達京子、立松一徳、立松太佳子、伊沢栄子、三須光好、吉田洋二、吉田陽子、山田路子【東京都】梶田みどり、小野寺美和子、箕村早苗、吉岡真理、児島和子、小松多佳子、亀山美代子、高田恵利子、榎川勝也、小山英之、杉本大輔、束野ゆり恵、西田百合香、栗田道子、土屋昌子、三崎つゆ子、久保田幸代、吉田寛子、吉岡和子、佐藤操子、吉武尚子、藤原伸子、相馬恵淑、黒川小枝子、岸井真里、上智大学岡ゼミ、イエスのカリタス修道女会、イエズス会岐部修道院、セカンドハーベストジャパン、聖心侍女修道会用賀修道院、クリスト・ロア宣教修道女会【神奈川県】宮脇由利、花川泰雄、松岡詔子、米林睦子、塚田美千代、坂本和隆、池田美佐子、吉越喜世子、

兒玉和子、小山満子、アカガワキョウコ、片岡賢蔵、片岡宝子、緒方（泉水教会）、嶋永陽子、笠原祥子、黒澤美恵子、佐藤ゆり、有川憲治、寺師京子、小野恭世、匿名、ジュニア合唱団なぎさ道、鎌倉泉水教会、聖母訪問会、かながわフードバンク、わたぼうし教室【長野県】柳田ミヨシ、鳥羽知恵子、油野治子、吉原与志子【静岡県】落合一美【愛知県】山本キミエ【奈良県】越野真紀江【三重県】菅原功【京都府】竹内多喜子、九里イツ子、岡眞智子、丸里イツ子【大阪府】久本直子、敷島康雄、山崎広志、天田吉彦、ナガナワトモアキ、林眞里子、山崎かをる、中川知彦、新道幸恵、匿名【兵庫県】植田雅子、若山晴子、若山晶子【愛媛県】カズヒロ【広島県】宮崎旭子【福岡県】井手順子、安藤眞由美、白水明代、柴田香葉、坂本ヒロ子、里井雅代【長崎県】犬塚明子、深堀朝視、相川恵美子、カトリック至聖贖罪主修道女会、神の御母修道院【大分県】裕恵美子【鹿児島県】野田鈴枝、モニカ エルハルド、レデンプトール宣教修道女会【沖縄県】比嘉須賀子

■ NPO 法人 アルペなんみんセンターとは？

設立 2020 年 2 月 5 日

迫害から逃れた来日した難民の支援センターです。日本にも毎年、一万人を超える難民が来日しています。母国での迫害の傷を癒し、地域社会へ定住するため日本語の習得、日本文化の理解、自立に向けた支援を行なっています。

- ・ 難民の定住サポート - シェルターの提供 / 日本語・日本文化を学ぶ場の提供 / 認定申請手続支援 / 通訳翻訳支援 / 就労支援
- ・ 難民と日本社会をつなぐ - 難民の社会参画支援 / 難民セミナー、イベントの実施
- ・ 国内外の難民支援団体とのネットワーク

■ 難民とは？

世界の難民は 7,950 万人 (2020, UNHCR) を超え、毎年増加しています。1951 年の「難民の地位に関する条約 (難民条約)」では、「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいと迫害を受けるかあるいは迫害を受けるおそれがあるために他国に逃れた」人々と定義されています。

■ 困窮する来日した難民たち

迫害から逃れて来日する難民が増えています。しかし、来日間もない難民に対して、日本政府からの支援は限定的で、市民団体や市民の人道的支援で生活をせざるを得ない状況が続いています。路上生活を余儀なくされる難民も数多くいます。

難民認定申請手続には、数年かかり、その間、難民は、精神的にも、経済的にも、法的にも不安定な状態に置かれています。

■ 難民を受入れる日本に！

日本が 1981 年に難民条約に加入して、2019 年までの 39 年間で、受入れた難民はわずか 11,911 人。内外から「難民鎖国ニッポン」と批判され続けています。

■ 各国の難民受け入れ状況 (2019 年, UNHCR)

	難民申請数	難民認定数	難民認定率
ドイツ	208,554	53,973	25.9 %
アメリカ	150,972	44,618	29.6 %
フランス	162,358	30,051	18.5 %
カナダ	48,756	27,168	55.7 %
イギリス	35,720	16,516	46.2 %
イタリア	93,420	10,091	10.8 %
日 本	10,375	44	0.4 %

■ 施設紹介 (イエズス会・日本殉教者修道院)

カトリック教会の修道会・イエズス会日本殉教者修道院を活動の拠点としています。同修道院は、1965 年、宣教師の日本文化、日本語の学びの場として建てられました。長年、「イエズス会・鎌倉黙想の家 (2020 年 3 月末閉鎖)」の愛称で、祈りの場としても愛されてきました。

日本でキリスト教への宗教的迫害で殉教した人々を記念して「日本殉教者修道院」の名がついています。

黙想会、研修会(宿泊可)のために施設利用が可能です。詳細は、お尋ね下さい。



■ 団体名称について

団体名称は、イエズス会第 28 代総長ペドロ・アルペ神父 (1907-1991) の名から来ています。アルペ神父は、1938 年宣教師として来日。1945 年に広島で原爆を体験し、被爆者の救援・介護に尽くされました。日本殉教者修道院は、アルペ神父が初代イエズス会日本管区長の時に建てられました。

イエズス会総長在任中、インドシナ難民の惨状に対応するために、イエズス会難民サービス (JRS) を設立され、現在、世界 56 ヶ国で難民支援活動に従事しています。



■ ご支援ください！ アルペなんみんセンターは、寄付で運営されています。皆様のご支援をお願いいたします！

郵便振替口座 00250-6-107205 NPO 法人アルペなんみんセンター
ホームページから、クレジットカードでのご寄付が可能です。